

あつま

# 生涯学習だより

発行 厚真町教育委員会 電話 27-2495

主な記事

- ①子どもが自ら育つ環境整備
- ②スポーツセンターに木製ブロックの寄贈/学校閉庁日
- ③優秀競技者として8人を表彰
- ④定例教育委員会/成人式/青少年センターからのお知らせ/学校運営協議会
- ⑤図書室だより
- ⑥放課後子ども教室活動紹介

## 子どもが自ら育つ環境整備～こども園つみきの取組～

こども園つみきが今年度から取り組んでいる「子どもが自ら育つ環境整備」の内容を紹介します。

こども園つみきでは、一人ひとりの子どもが自分の力を発揮し、挑戦したり失敗したりしながら「自ら育つ環境」づくりを目指して今年度から園庭整備を始めました。令和2年度の目標は園庭の土台作りとして、①古くなった既存遊具の撤去、②転んでもすり傷になりにくい目の細かい土をベースに敷く、③木材を使って子どもが「やってみたい」「挑戦したい」と思うような遊具等を作りながら職員のスキルを磨く、という3つです。

0才から6才までいろいろな発達段階の子どもたちが過ごす園において、どのような環境を用意すると良いのか、全国の園で研究と実践を重ねている講師の方とこども園の職員が研修やワークショップを行いながら少しずつ進めています。

6月の土曜日に2回の作業を行い、高さ90センチのステージや、お店屋さん気分でする屋台、そして部屋から園庭へつながるウッ



ドデッキ（まだ途中）を製作しました。土はあえて園庭の真ん中にドーンと大きな山にしてもらいました。さっそくステージによじ登ったり、「いらっしゃいませ～」とお店屋さんになったり、自分の背の高さより何倍も高い山に登ってみたり、子どもたちは目をキラキラ輝かせながら楽しそうに遊ぶ姿を見せてくれています。

幼児期の子どもにとっては『遊びこそが学び』と言われていています。子どもが自分から「やりたい！挑戦したい！」と心躍る場面をたくさん提供できるような環境を目指して、3年から5年程度の時間をかけて整備を進めます。整備の途中段階も含めて子どもたちがたくさん遊びながら自ら育つ場となり、そして大人にとっても居心地の良い園庭になるように、四季折々の姿を見せてくれる樹木を植えることも計画しています。今後は、保護者や地域の皆さんにもご協力をいただきながら、環境整備を進めていく予定です。

問い合わせ

厚真町こども園つみき ☎27-3945

この取組は、昨年度から教育委員会で本格的に始動した「冒険の杜プロジェクト」と連携しながら、取り組んでいるものです。今後の展開がとても楽しみです。

## 胆振管内連携・胆振東部地震復興祈念事業

# スポーツセンターに木製ブロックの寄贈

6月10日（水）、北海道胆振総合振興局森林室から、厚真町スポーツセンターに計800個の木製ブロックが寄贈されました。

この事業は、胆振東部地震復興祈念事業の一環として、公益社団法人北海道杜の緑の会が、苫小牧造園協同組合と胆振総合振興局森林室と連携して昨年から行っているものです。この木製ブロックは、苫小牧市内にある街路樹等を材料にしたもので、手触りをよくするため、苫小牧市民の協力によりやすりがけが行われています。



木製ブロックを寄贈する森林室 山岸 氏



いろいろな樹種で作られている木製ブロック

この木製ブロックには、ヤチダモ、アオダモ、ニレ、エンジュという4種類の樹木が使用されています。それぞれ色や木目、重さなどに違いがあり、上厚真の大浦木工場で製材され、たくさんの方々の協力で作られたものです。スポーツセンターを訪れた際には、プレイルームの前に展示されていますので、樹種の違いなどをご覧ください。

## 夏季休業中の「学校閉庁日」

町内の小中学校では、次のとおり夏季休業中の学校閉庁日が設けられています。この期間、学校には教職員が不在になりますので、学校への問い合わせや転出入の手続き等は閉庁日以外に行ってください。

### 【閉庁日】

令和2年8月12日（水）～14日（金）の3日間

### 《閉庁日を設ける目的》

- ・教職員の心身の健康増進及び休暇取得の推進
- ・夏季期間における省エネルギーの推進

### 【注意事項】

- ・緊急時の場合は、学校が提示する連絡先又は下記の学校教育グループに連絡してください。
- ・部活動も、特別な事情がある場合を除き、原則として実施しません。
- ・学校プール並びに学校開放による体育館の使用もこの期間はできません。

### 【問い合わせ先】

教育委員会 学校教育グループ（☎27-2494）



厚真町体育協会

# 優秀競技者として8人を表彰

## サッカー、陸上など5競技で昨年度全国大会へ

厚真町体育協会（吉岡茂樹会長）では、このほど本年度の優秀競技者の受賞者を決定しました。

優秀競技者表彰は、町民が全国規模の大会に出場し活躍した選手を讃えるもので、本年度は5競技8人の青少年を表彰します。

例年であれば、8月に開催される集まりンピック（町民体育祭）の開会式で表彰されていますが、新型コロナウイルスの影響により中止となったため、表彰状と副賞については、後日、本人に届けられます。

5競技にわたり8人が優秀競技者として表彰されるのは、同協会で表彰を始めて以来最多であり、サーフィン競技、パワーリフティング競技での表彰者は初めてです。

今回、表彰される選手の

皆さんや後進の子どもたちの今後ますますの活躍が期待されます。

### 【サッカー競技】

#### ▽沼田咲羽さん

（大会出場当時・厚真中学校1年・宇隆在住）

JFA第24回全日本U-15女子サッカー選手権大会（大阪府堺市）にASCB海道レディースの一員として出場

▽藏重 快さん  
（大会出場当時・厚真中学校3年・表町在住）

JFA第25回全日本U-15フットサル選手権大会（三重県伊勢市）にASCB海道U-15の一員として出場

▽大山 樹さん  
（大会出場当時・厚南中学校3年・上厚真在住）

JFA第25回全日本U-15フットサル選手権大会

（三重県伊勢市）にASCB海道U-15の一員として出場

### 【陸上競技】

#### ▽中島愛梨さん

（大会出場当時・厚真中学校1年・表町在住）

第50回ジュニアオリンピック陸上競技大会（神奈川県川崎市）に女子円盤投げで出場

#### ▽木戸響己さん

（大会出場当時・北海道恵庭南高等学校3年《厚真中卒》・表町在住）

令和元年度全国高等学校総合体育大会陸上競技会・秩父宮賜杯第72回全国高等学校陸上競技対校選手権大会（沖縄県沖縄市）に男子円盤投げで出場

### 【サーフィン競技】

#### ▽丸山晴風さん

（大会出場当時・厚真中学校1年・豊沢在住）  
第54回全日本サーフィン選手権大会2019（高知県東洋町）にキッズ部門で出場

### 【スピードスケート競技】

#### ▽尾谷駿文さん

（大会出場当時・厚真中学校2年・宇隆在住）

令和元年度全国中学校体育大会・第40回全国中学校スケート大会（長野県長野市）の男子3000mに出場し16位、また、5000mにも出場

### 【パワーリフティング競技】

#### ▽長門実空さん

（大会出場当時・池上学院高等学校3年《厚南中卒》・鹿沼在住）

第20回ジャパンプラシックスベンチプレス選手権大会（兵庫県明石市）に出場し女子サブジュニア47kg級において日本新記録で優勝し、世界大会への出場権を獲得。本年10月、ロシアで行われる世界大会に出場予定。また、同選手権大会（三重県津市）に出場し、一般女子47kg級で8位



ながとみ く  
▲長門実空さん



まるやまはるた  
▲丸山晴風さん



きどひびき  
▼木戸響己さん



なかじまあいり  
▲中島愛梨さん



おおやま いつき  
▼大山 樹さん



くらしげ かい  
▲藏重 快さん



ぬまた さわ  
▼沼田咲羽さん



## 6月定例教育委員会

6月27日に開催された定例教育委員会の会議内容についてお知らせします。

### ◆報告事項◆

行事参加の動向／第2回厚真町議会定例会／小中学校の夏季休業期間について／PTA 会長・教育長懇談会について／第1回厚真町 ICT 教育推進プロジェクト会議について／北海道厚真高等学校教育振興会総会について／6月の校長会議・教頭会議について／厚真町学校職員セーフティラリーについて／厚真町青少年健全育成委員会について（9件）

### ◆議案◆

令和2年度厚真町育英資金の貸し付けについて（1件）

### ◆協議事項◆

厚真町教育委員会の活動状況に関する点検・評価について（1件）

問合せ 教育委員会学校教育グループ  
☎27-2494

## 令和2年度成人式

令和2年度の厚真町成人式を次のとおり開催します。なお対象者には11月に案内を送付します。

と き 令和3年1月10日【日】

午前11時から

ところ 厚真町総合福祉センター大集会室

対 象 平成12年4月2日から平成13年4月1日の間に出生し、本町に住民票を置いている方及び本人が町外へ転出している方、保護者などが本町に在住している方

問合せ 教育委員会社会教育グループ

☎27-2495

## 青少年センターからのお知らせ

### ◇フラネタリウム情報◇

【予約が必要です】

7月1日（水）～

【定期投影】

9月から再開予定ですが、8月6日（木）～8月17日（月）までの間は、午前・午後各1回投影します。（ただし、8月10日の祝日を除きます）

★投影内容★ 星空解説ほか

【留意事項】

- ・団体利用の際は、感染対策用利用申請書を提出
- ・投影人数を10人以下に制限
- ・団体利用の際は、事前にお問い合わせください。

### ◇世界の昆虫展◇

と き 8月6日（木）～8月17日（月）  
9時～17時（火・木は19時まで）

※ただし、8月10日の祝日を除きます。

※今年度は期間を短くして開催します。

ところ 青少年センター2階ホール

入場料 無料    

問合せ 教育委員会社会教育グループ  
☎27-2495

## 学校運営協議会 開催

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から開催を見送っていた学校運営協議会が、6月29日（月）に厚南地区で、7月14日（火）には中央地区で開催されました。

学校運営協議会とは、地域の皆さんと学校が協働して子どもたちの成長を支えるコミュニティスクールを推進するうえで中心的な役割を担う組織で、学校と地域が学校運営について話し合いをする場です。これからも地域全体で子どもたちを支える厚真町を目指します。



6月29日（月）に開催された厚南地区学校運営協議会の様子

問合せ 教育委員会社会教育グループ  
☎27-2495

# 図書室だより

青少年センター図書室

TEL 27-2495 (平日)

😊 夏休みは色々なことに挑戦してみよう 😊

## ★ ★ ★ 観察してみる

虫や星空をじっくり観察してみよう。

スケッチブック1冊を用意して家の周りを観察するだけで、「厚真町虫図鑑」ができるよ。

星空を見ながら星座を探して、方眼紙に1時間ごとの星の動きを記録するとおもしろいよ。

外に出る時には大人といっしょに行くか、行先を必ず伝えてからでかけよう。

## 作ってみる

おもちゃを自分で作ってみると動く仕組みが分かって楽しいよ。図書室にはいろいろな工作やアクセサリの本があるから参考にしてね。

「イチからつくる」シリーズもおすすめ。いつも使っているえんぴつやのりを作ってみたり、カレーライスやポテトチップスを作るのに必要なものについて調べたりできるよ。

## 「お出かけ計画」を立ててプレゼンテーションをしてみる

行ってみたい場所を見つけたら、プレゼンテーションをして「連れて行ってほしい」とお願いしてみよう。プレゼンテーションというのは、自分で調べたことを分かりやすく紙に書いて発表すること。その場所がどんなにすばらしいか、そこへ行くと自分たちにどんなに良いことがあるかを調べて伝えてみよう。

1. まず行きたい場所を決める。
2. その場所の開館日、交通手段、かかるお金(入場料、電車賃、食費など)を調べる。
3. その場所に行くと、自分や一緒に行く人たちにどんな良いことがあるかをまとめよう。  
※ここが一番大事な所なので、学校で習ったことをフル活用してまとめよう。
4. まとめ終わったら紙に書いて、一緒に行きたい人に発表してみよう。

※大きな紙1枚よりも、新聞のチラシやA4サイズの紙を何枚か使って、紙芝居のように書くと伝わりやすい。

5. 結果発表を待とう。

■8月の休館日  
10日【月】 山の日

※悪天候や緊急事態で、休館することがあります。

■青少年センター図書室開館時間  
午前9時から午後5時(月・水・金・土・日)  
午前9時から午後7時(火・木)

■厚南会館図書室  
午前9時から午後5時(月～日)  
※毎月5日・20日が土日・祝日の場合は休館となります。

8月のおはなしのびっくは 27日(木)10時30分から  
場所は青少年センター図書室絵本コーナーです。

# ☆放課後子ども教室☆

夏の訪れを告げるハスカップの収穫が最盛期を迎える頃、カラッとさわやかな日差しは姿を隠し、しとしとと降る雨が呼ぶ肌寒さ。先月初めの暖かさは、一体どこへ行ってしまったのだろう？と思わず首をかしげてしまう7月の始まりです。

6月後半から7月前半にかけての子ども教室は、身近な自然を楽しむ自然探検やキックベース、モノづくりなどのプログラムを行いました。自然探検では、学校周辺にある木々の葉っぱを探すゲームをしました。渡された『葉っぱカード』と同じものを見つけるためには、形や大きさをよく観察しなければなりません。形は似ているけれど、ふちにギザギザがあつたりなかったり、大きさが極端に違ったり、よく見ることで違いを見極めていきます。意見を交わしながら、答えにたどり着いた子どもたちは、とても満足そうに集めた葉っぱを眺めていました。

スポーツプログラムではキックベースに挑戦。低学年ではルールを簡素化して行いましたが、1、2年生にはまだ少し難しかったようです。3年生以上になると知恵を働かせ、どこにボールを蹴れば得点につながるかを考えながら遊ぶことができていました。高学年は細かな指示を出さなくても、チームもルールも自分たちで決めて試合の準備が進みます。私たちスタッフが何も言わなくても、6年生が中心になり、必要に応じてルールを簡単にするという配慮もできるようになりました。先輩としての度量がぐっと広がったように感じました。

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、実施することを見合わせていたモノづくりプログラム。アフターコロナの新しい生活様式を参照しながら、どのような内容・形式であれば実施できるかを関係者で考えました。前後左右の間隔をあげ、共有で使用するものを最小限にし、材料がすべて入った工作キットを一人ひとつずつ渡す形で試してみよう、と今回は無地のうちわにシールを貼って好きにデザインする、オリジナルマイうちわをつくることにしました。久しぶりのモノづくりプログラムということもあり、合計100人を超える子どもたちが参加しました。ひらめきを信じて、迷いなく次々にシールを貼っていく子もいれば、まずは並べて構図を確認し、微調整をしながら慎重に貼っていく子もいて、それぞれの個性が良く見えます。今後も工夫を重ねて、モノづくりプログラムも取り入れていきたいと思えます。

